

北海道で恐竜の足の骨 体全部の骨が残っている可能性

[01月20日 11時30分]

北海道むかわ町で大きな恐竜の後ろの右足の骨が土の中から見つかりました。この恐竜は草を食べるハドロサウルス科という種類で、足の骨はほとんど完全な状態で残っていました。今までに見つかった恐竜の骨の中では、とてもいい状態です。見つかった場所は、恐竜が絶滅する（＝地球からいなくなる）少し前の約7200万年前の土の中です。

骨を見つけた北海道大学の小林快次さんたちによると、この恐竜は体の長さが約8mで、体全部の骨が土の中に残っている可能性があります。日本では今まで、そのころの恐竜は体全部の骨が見つかったことがありません。

小林さんは「体全部の骨が見つかったら、恐竜の種類が増えて最も進化したときのことになるので、とても貴重です」と話しています。これからも土の中を調べていく予定です。